

# 野村万作 狂言の会



出演 野村万作 野村萬齋 石田幸雄 他

演目 狂言「昆布売」  
狂言「呂蓮」  
狂言「文荷」

2021.  
9/28火

開場 18:30 開演 19:00

黒部市国際文化センター  
コラーレ (カーターホール)

### 全席指定

一般5,000円  
高校生以下1,000円  
(コラーレでのみ発売)  
障がい者手帳をお持ちの方  
4,000円(コラーレでのみ発売)

- この公演は黒部市の助成により低料金でお楽しみいただけます。
- 未就学児の入場はご遠慮願います。
- 車椅子の方、補助犬をお連れの方は、座席の相談を承りますので、コラーレまでお問い合わせください。

■プレイガイド：コラーレ・チケットぴあ (セブン-イレブン等) Pコード 506-909

主催 / 公益財団法人黒部市国際文化センター  
共催 / チューリップテレビ  
後援 / 黒部市 黒部市教育委員会 北日本新聞社

●お問い合わせ●  
黒部市国際文化センター コラーレ  
〒938-0031 富山県黒部市三日市20番地  
TEL.0765-57-1201 FAX.0765-57-1207  
info@colare.jp http://www.colare.jp/

チケット一般発売日 / 7月11日(日) 9:00~

ご来場のみなさまへ  
新型コロナウイルス感染症対策にご協力をお願いいたします。

- 手洗い、消毒液のご利用をお願いいたします。
  - マスク着用にご協力ください。
  - 咳、のどの痛み、だるさ、発熱などの体調不良を感じる場合には、ご来場をお控えください。
- ※密集を避けるため、原則隣席を空けた座席配置となります。隣りあわせでの購入はできませんので、ご了承ください。
- ※感染症拡大防止のため、公演が中止・変更になる場合があります。最新情報はHPをご覧ください。



六五〇年の歴史を誇る、日本古来の伝統芸能。  
芸を追求し続ける人間国宝・野村万作、  
多彩な才能を発揮する野村萬齋が  
室町時代から続く最古の喜劇  
「狂言」の世界へ誘います。

# 野村万作 狂言の会

六五〇年の歴史を誇る、日本古来の  
伝統芸能。

芸を追求し続ける人間国宝・野村万作、  
多彩な才能を発揮する野村萬齋が  
室町時代から続く最古の喜劇  
「狂言」の世界へ誘います。



野村万作  
狂言師

一九三一年生。重要無形文化財各個指定保持者（人間国宝）、文化功労者。祖父・故初世野村萬齋及び父・故六世野村万蔵に師事。早稲田大学文学部卒業。「万作の会」主宰。軽妙洒脱かつ緻密な表現のなかに深い情感を湛える、品格ある芸は、狂言の一つの頂点を感じさせる。国内外で狂言普及に貢献。ハワイ大・ワシントン大では客員教授を務める。狂言の技術の粋が尽くされる秘曲「釣狐」に長年取り組み、その演技で芸術祭大賞を受賞したほか、紀伊國屋演劇賞、日本芸術院賞、紫綬褒章、坪内逍遙大賞、朝日賞、旭日小綬章、中日文化賞、ジャパン・ソサエティ賞等多数の受賞歴を持つ。近年では、『榎山節考』の再演に取り組み、大きな成果をあげている。『狂言を生きる』（朝日出版社）を刊行。



野村萬齋  
狂言師

一九六六年生。祖父・故六世野村万蔵及び父・野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。東京藝術大学音楽学部卒業。「狂言ごさる乃座」主宰。国内外で多数の狂言・能公演に参加、普及に貢献する一方、現代劇や映画・テレビドラマの主演、舞台『敦・山月記・名人伝』『国盗人』『子午線の祀り』など古典の技法を駆使した作品の演出など幅広く活躍。各分野で非凡さを発揮し、狂言の認知度向上に大きく貢献。現代に生きる狂言師として、あらゆる活動を通し狂言の在り方を問うている。九四年に文化庁芸術家在外研修制度により渡英。芸術祭新人賞・優秀賞、芸術選奨文部科学大臣新人賞、朝日舞台芸術賞、紀伊國屋演劇賞、毎日芸術賞千田是也賞、読売演劇大賞最優秀作品賞等を受賞。世田谷パブリックシアター芸術監督。石川県立音楽堂邦楽監督。東京藝術大学客員教授。



石田幸雄  
狂言師

一九四九年生。野村万作に師事。重要無形文化財総合指定保持者。すでに数多くの優れた舞台歴を持つ野村家の重鎮。大曲の『三番叟』『釣狐』『花子』をすでに初演。国内外で狂言・能公演に多数参加、普及に貢献している。主宰していた「雙ノ会」で芸術祭大賞、個人で観世寿夫記念法政大学能楽賞受賞。大胆かつ緻密な演技で、古典はもとより『国盗人』など新しい試みの舞台でも存在感を見せる。普及公演での的確な解説にも定評がある。

## 狂言 番組

解説 野村萬齋

狂言

### 昆布売

こぶりり

供を連れずに出かけた大名。たまたま通りかかった若狭の小浜の召し（献上）の昆布を売る男を脅し、太刀を持たせて供とする。初めはしぶしぶ従っていた昆布売りだが、大名が油断した隙に太刀を抜き、逆に脅された大名が昆布を売ることになる。物など売ったことのない大名は、昆布売りにさまざまな注文をつけられ……。

昆布売りが太刀を抜くことで強いはずの大名より優位に立つという、中世の下克上の世相を反映した立場の逆転が笑いを誘う狂言です。また昆布の売り声には、浄瑠璃節や踊り節など中世の流行歌謡が取り入れられています。

大名 石田幸雄

昆布売 石田淡朗

後見 飯田豪

狂言

### 呂蓮

ろれん

宿の主人は、旅の僧の話の聞いて出家を希望する。僧は、主人が女房や親類に既に了解を得ていると聞き剃髪し、更に名前をつけて欲しいと言われたので、「蓮」の字にいろはをつけた名をいくつか提案し、結局、呂蓮坊と名づけることにする。そこに何も聞かされていない妻がやってきて……。

にわか仏心に目覚め出家をしようとする主人が、妻に責め立てられて翻すところに、移り気な人の心の面白さを感じられます。洒脱味あふれる演技をお楽しみ下さい。

僧 野村万作

宿主 中村修一

妻 岡 聡史

後見 飯田豪

狂言

### 文荷

ふみにない

太郎冠者と次郎冠者は、主人から少人（稚児）に宛てた恋文を届けるよう命じられる。二人は道々文を押し付け合うが、なかなか進まないのので文を竹竿に結び二人で担ぐことにする。能『恋重荷』の一節を諷しながら運んでいくと、何故か文が重く感じられる。どうしても中身が気になると、二人は文を開けてしまい……。

能『恋重荷』をパロディにした狂言です。太郎冠者・次郎冠者が息を合せて文を担ぐ場面は、小気味よい掛け合いに加え謡曲をも取り込み、興味あふれる内容になっています。

太郎冠者 野村萬齋

主 月崎晴夫

次郎冠者 野村太一郎

後見 石田淡朗